

## 岡崎久彦大使を偲ぶ會

土屋 博

文語日誌（平成二十七年四月十四日）

四月八日、霞が關霞山會館にて「岡崎久彦大使を偲ぶ會」舉行せらる。

故人の廣き交友關係を反映し、參加者は約六百人にも及び、安倍總理、野田前首相、福田元首相、小泉元首相をはじめ、日本の政界、官界、實業界、學界など廣範多岐に亘る。我が國を代表する方々のかくの如く一堂に會する機會は稀有のことと覺ゆ。

野田前首相壇上に登り、政權末期に岡崎氏より獻ぜられたる漢詩「民主の子弟才俊多し 捲土重來未だ知るべからず」を「私の寶物」としてゐると熱く語る。

やや遅れて到著の安倍總理は、昨年夏集團的自衛權容認決定に岡崎氏「思い残すこともはや無し」の言あり。一瞬耳驚かしけるが永訣の辭となりにけりとて、その遺業を繼ぎ我が國の安全を守り抜かむとの強き決意を表明せらる。

偲ぶ會の列席者には記念品として二冊の書籍配布せらる。

一「國際情勢分析 半世紀」（育鵬社、四月八日刊、定價千七百圓十稅）

昨年六―七月讀賣新聞紙上に二十五回にわたり好評連載の「時代の證言者」をもとに本人も一部加筆し、「友人・知人の見たる岡崎久彦」、著作目録、略年譜、貴重な家族寫眞等を附す。冒頭には安倍總理の序文もあり。タイトルの「半世紀」には「反省記」の意も込めたる由。

二「岡崎久彦文語文遺稿集」（文語の苑、四月八日刊、非賣品）

岡崎氏は「文語の苑」生みの親なれば、「偲ぶ會」のために特に編纂せらる。過去に「文語の苑」會報に岡崎氏の執筆したる文語文（蹇蹇録、朝鮮古代史、朝鮮中世史）を纏めて収録す。格調高き文語文にて、滋味深し。冒頭には愛甲次郎先生による心の籠りたる弔辭あり。曰く、

岡崎氏の如き、明治人の教養を體現しつつ東西兩洋に通曉せる大人物、今後は當分現るること難かるべし。